

世界最終戦争

ハルマゲドンは近い？

聖書は語る……恐るべき近未来について

ウィリアム・マクドナルド著

伝道出版社



# 人々は何かを求めている

## 序 文

アルビン・トフラ―氏は、今から約20年前、彼の最初の本である「未来の衝撃」で一躍有名になりました。その頃から終末に関するテーマが流行し始め、今日では未来の出来事に関するおびただしい数の書籍が発行されています。それらはすべて、現在の世界の動きと将来起こるであろう変化や変動に焦点を当てています。そして、それらはまさに大変動と呼ぶにふさわしいものなのです。ヨギ・ベラ氏（有名なニューヨーク・ヤンキーズのキャッチャー）が言っているように、「未来の世界は一変する」のです。

人々は将来に向かっていつも何かを探し求めています。政治の世界で、ビジネス社会で、家庭の中で、……ひとりっきりでいるときでさえ心の奥底で何かを探し求めています。人道主義（ヒューマニズム）的アプローチは私たちにつかの間の成功をもたらすかもしれません。しかし、やがてそれも行きづまります。また、共産主義社会の実現という試みがどのような結果になったかを知らない人はいません。今は、民主主義が東ヨーロッパの国々などで多くの人々に希望を与えているように見えます。しかし、そのような国々では、資本主義の名のもとでの道徳的な墮落がはびこり、人工妊娠中絶や、怠惰で放縱な生活態度などが人々の間にしみ渡っているのです。科学技術はもうひとりの「救い主」として私たちを手まねきしました。しかし、その発展によって私たちはさらに激しい混乱に陥り、多くの難問が生まれました。人々はテレビドラマの虚構の世界に逃げ、あげくの果てには麻薬中毒にすら陥ってしまう人がでるのも無理はないのかもしれませんが。

約20年前、一冊の本が世間を騒がせました。ハル・リンゼイ氏が書いた「地球最後の日」です。それは、一冊のペーパーバック本に過ぎなかったのですが、数世代にわたって保たれてきた道徳的基準が「新

# 聖書は未来について語る

しい道徳」なるものによって一掃されてしまった様子を目の当たりにした多くの人々の関心を引きました。彼の著作は、さかんにその「出所」ともいうべき一冊の本からの引用を繰り返していました。それは、未来の出来事を取り扱ったもっとも権威ある書物ともいうべき本でした。いうまでもなく、それは「聖書」だったのです。

聖書は、単なる金儲けのための「はやりの予言書」ではありません。それで、その著者である神に対して印税を払う必要もありませんし、貢献した編集者たちに給料を払うわけでもありません。流行の情報誌が「お勧めの本」として書評欄に取りあげることもないのです。昔の映画の中には聖書から題材を取ったものが多数ありました。しかし、その著作権を主張することもしません。聖書には現代用語辞典に載るようなハイレベルの技術用語はまったく出てきません。けれども、世界の変革や進歩といったようなことに関しては決して部外者というわけではないのです。そこには驚くべきことに、携拳、大患難時代、ハルマゲドン（世界最終戦争）、千年王国、新しい天と新しい地、いのちの木などについて書かれています。それは、人々にこの世の満足だけを与えて終わってしまうのではなく、さらにすぐれた輝かしい希望へと導いてくれるのです。新天新地（その都には、透き通ったガラスのような純金の大通りがあり、その中心からは文字どおりの「いのちの川」が流れ出ているような新しい天と新しい地）について聖書は語っています。その町は、もし私たちが一目でも見ることができれば、息をのむほどに驚くほどの輝かしいすばらしい町なのです。

聖書は現代と未来について多くのことを語っています。おもな預言者としてはイザヤ、エレミヤ、エゼキエル、ダニエル、ゼカリヤ、ヨハネといった名前をあげることができます。そこにはもちろん主イエスも含まれます。私たちが今いる現代と、これから迎える未来の時代について、彼らは臆することなく率直に語ってくれました。今日の社会では、驚くばかり高率となった離婚率が各国で報告され、エイズの

# 聖書は驚くべき本である

恐怖も存在し、また先進国の中には一日に何千人もの新しい生命が合法的に闇から闇に葬られている国もあるのです。ところが一方、私たちが持っているのと似たような道徳的な問題に彼らも直面していました。聖書の中に登場する預言者たちの語ることは果たして真実なのでしょうか。彼らはいったい何を、どのように語ったのでしょうか。

聖書が書き始められたのは、今から約3,500年前です。それは、私たちがその預言的な記録の信憑性しんぴやうせいを調べるには十分な時間です。このことに関しては、「聖書は今までに作られた本の中でもっとも驚くべき本である」と言われています。聖書にはイスラエルと異邦人国家について預言がなされています。特定の人物やいくつかの都市のことも預言され、特に救い主に関して預言されているのです。これほど多くの預言がしるされ、しかもそれがことごとく成就した本は他には存在しません。

聖書の預言は、ただ単にひとつの民族やひとつの場所といったような、たったひとつの側面だけのことを預言したものではありません。その預言は、さらに広範囲の民族や場所にも及ぶものです。つねに二重、三重の意味を持ち、次々に描写をつけ加えながら、最後にその実像をあらわすようなものなのです。もし、わずかにひとつやふたつの預言が成就したのであれば、人はそれを偶然と呼ぶかもしれません。しかし、そのどれもがひとつ残らず実現するとき、それを偶然とみなすのは不合理なことでしょう。

このことに関して、救い主に関する預言と、それを成就しているイエス・キリストについて考えてみましょう。ある人はこのように語っています。「イエス・キリストに関する48の預言が、ある一人の人物に成就する確率は10の157乗に1回しかない」。すなわち1の後にゼロが157個つくといふのです。もし、救い主に関する48の預言のうち、八つの預言だけに限って考えるとどうでしょうか。それが一人の

# 聖書は究極的な回答である

人物に成就する確率はどれくらいでしょうか。今、仮に日本の本州の地面全体に60センチメートルの高さにまで五百円玉を敷きつめたと仮定します。その中のひとつだけに目印をつけて、それを地面に敷きつめた五百円玉の山の中に返し、徹底的にかき混ぜます。それから、目隠しをした人が日本の本州全体に散らばっているおびただしい数の五百円玉の中から、その目印をつけた、たったひとつの五百円玉をたった一回で拾い上げることに挑戦します。そのことに成功する確率が、救い主に関する預言のうちの八つが一人の人物に成就する確率と同じであるということです。

聖書は未来に対する究極的な回答です。「未来の衝撃」に目を向けて、ハルマゲドンが本当に近づいているかどうか調べてみようではありませんか。

ドン・コリヤー

# これから起こる出来事

## 何が起ころうと しているのか？

“ハルマゲドン”“地獄の黙示録”“世界最終戦争”“運命の日”“キリストの再臨”“世の終わり”……私たちは、このようなことばを、最近テレビや雑誌でよく見かけるようになりました。これらのことは、近い将来、本当に起こり得ることなのでしょうか。

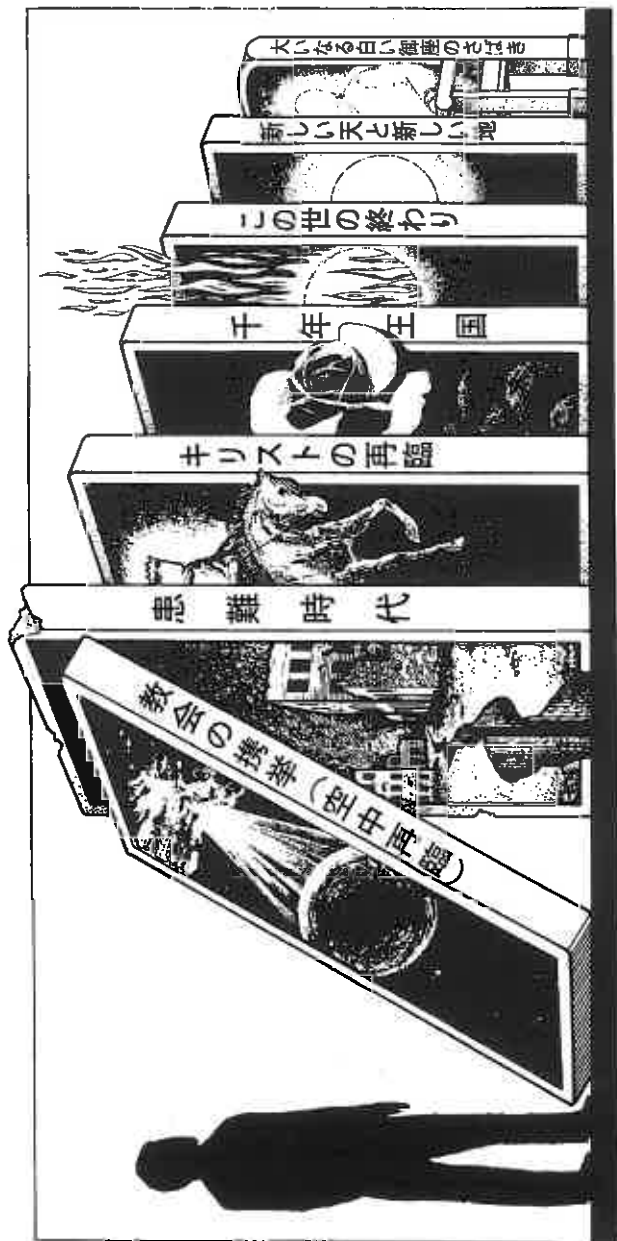
## 未来への地図

—私たちはどこへ  
向かっているのか？

未来に横たわっていることに関して、疑いや混乱、または誤解を生じる必要はありません。聖書が未来の明確かつ正確な全景を描写しているからです。まず簡単に、これから起こる七つの主要な出来事をあげます。その後で、ひとつひとつを詳しく説明していくことにしましょう。

- 教会の擄奪ひいきり
- 患難時代
- キリストの再臨
- 千年王国（キリストによる千年間の統治）
- 現存する世界の終わり
- 新しい天と新しい地
- 大いなる白い御座のさばき

これから起こる出来事





# まず最初に携挙が起こる

突然、すべての  
クリスチャンが  
蒸発する？——携挙けいきよ

「携挙けいきよ」とは何でしょうか。それは、キリストが天から空中まで降りてこられるときに起こります。それで、携挙は「空中再臨」とも呼ばれます。そのとき、クリスチャンとして死んでいったすべての者が「栄光の体」で墓からよみがえってくるのです。すべての生きている信者も「栄光の体」を与えられます。そして、ともに彼らは主と出会うために空中に引き上げられ、キリストとともに天に帰っていくのです。これが、神の預言のプログラムにおいて、この次に起こる出来事です。

聖書は、携挙についてかなり詳細に語っています。

これは確かなことです。神の御子であるキリストは「わたしはまた来る」と言われました。彼のことはほど確かなものは他にありません。

これは緊急な、差し迫ったことでもあります。というのは、いつ起こっても不思議ではないからです。その日、その時についてはだれも知りません。それが起こる直前に成就されなければならない預言がないからです。しかしながらキリストの再臨が近いというしるしが、これほどまでに数多く起こったことは、世界の歴史の中で今までありませんでした。

それは、予期せぬ時に起こるでしょう。それは、前ぶれもなしに起こります。

それは、突然の出来事です。聖書は、それが「まばたきをするほど

# それは突然の出来事である

の「一瞬の出来事」であると告げています。そのため、残された人々には何が起こったか分からないでしょう。それで「秘密の空中再臨」と呼ばれることもあります。

それは、分離の時でもあります。ちょうど、磁石が金属と木製のものを分けるように、キリストの来臨は信者と未信者とをはっきりと区別することになるでしょう。死んでいようと生きていようと、キリストの内にある者だけが天に行くことができます。信じていないすべての者は、地上に残されるのです。

それは、多くの人にとって救われる機会の終わりともなります。福音を聞きながらも、それを拒んだ人々は、「反キリスト」のうそを信じるようになるでしょう。換言すれば「反キリスト」こそ神であると信じるようになるのです。

## 聖書の参照箇所

ヨハネ 14:1-3、I コリント 15:51-58、

I テサロニケ 4:13-18

# 未曾有の困難が襲う

## 想像を絶する苦難

### ——患難時代

携挙に続くのは患難時代です。すべての信者が取り去られているので、状況は急速に悪化していくでしょう。

患難時代は、7年間にわたる未曾有の困難な時期です。来る日も来る日も「戦争」「飢饉」「疫病」「地震」「無政府状態」「暴力事件」といったことが新聞の冒頭をかざります。この期間に、神はご自分の愛するひとり子を拒否した世界に怒りを注がれるのです。

かつてなかったような天変地異が起こり、恐ろしい災害やむごたらしい大惨事が次々に地上を襲います。血の混じった雹や火が地上に落ちてきます。海の3分の1は血に変わり、海の生き物の3分の1が死んでしまいます。

144,000人のユダヤ人たちが、イエスを救い主として受け入れ、彼らは御国の福音を全世界へ伝える神の使者となります。彼らは、主イエス・キリストを信じ救われるように人々を招きます。主イエスが再臨されるとき、彼らはイエスの王国にはいるのです。彼らの伝道によってユダヤ人や異邦人の中に主イエスを救い主として受け入れる者が起こされますが、信じた後で激しい迫害を受けるでしょう。

患難時代には「反キリスト」が登場します。彼は世界的指導者となって、キリストに敵対し、キリストの代わりに自分を拜むように要求します。法律によって人々は、身体に「獣のしるし(666)」をつけるように定められます。もし、それに同意しなければ、彼らは日常生活物資の購入もできなくなるのです。殉教者も多く出るでしょう。

# ハルマゲドンの戦い

終末直前の3年半の期間は「大患難時代」といわれています。世界がこれまで経験したこともなく、また二度と経験することのない、想像を絶する暴挙や迫害が続く絶望の時代です。もし、その日数が少なくされなければ、人類は完全に滅び去ってしまうほどです。

ハルマゲドンでの戦いが行われるのは、この大患難時代においてです。しかしながら、ハルマゲドンでの戦いは、いくつもの戦争の中のひとつに過ぎません。

他の戦争の中には、北からの軍勢が侵入してきて、イスラエルの山々で主の御手によって壊滅的な敗北を喫する、というもあります。捨てられた武器は7年間、イスラエルの町々で火を燃やす燃料になります。ハモン・ゴグの谷では死んだ人を埋葬するのに7か月もかかってしまいます。

別の戦いは、大変激しいものとなり、血が馬のくつわのあたりまで



メギドの平野から見たハルマゲドンの谷

# 神はこの世に怒りを注がれる

届くほどだとたとえられています。

状況は非常に恐ろしい状態となり、人々は御座にある方の御顔から隠れるために、山や岩に向かって、自分たちの上に倒れかかってくれるように叫ぶほどです。

一度に人口の3分の1が滅ぼされてしまいます。反キリストを礼拝する者たちに、ひどい悪性のはれものが蔓延するでしょう。

血が川や水の源を汚染します。人々は苦しみのあまり舌を噛み切るほどです。太陽は異常現象をきたし、人々は日光の激しい炎熱によって焼かれます。ひと固まりが35キログラムほどもある大きな雹が地上にぶつってきます。神がこれらのさばきの御手をゆるめられることは決してありません。人々の心は恐怖のあまり生きる力を失ってしまいます。世界は混乱し、絶望するでしょう。

人々は非難所を求めて山々に逃げますが、のがれることはできません。隠れることができる場所などないのですから。

「だから、あなたがたも  
用心していなさい。なぜなら、  
人の子は、思いがけない時に  
来るのですから」。  
(マタイ 24:44)

## 聖書の参照箇所

エレミヤ 30:7、ダニエル 9:27、マタイ 24:4-28、  
ルカ 21:25-26、黙示録 6:1-19:10

## 御顔を拝す喜び

### ——キリストの再臨

キリストが再臨される前に、天においてしるしが起こります。太陽は暗くなり、月は光を放ちません。星は天から落ち、天の万象は揺り動かされます。この結果、地球はすさまじい大洪水や地殻変動を生じるでしょう。

それから、人の子（イエス・キリスト）は白い馬に乗り、「王の王、主の主」という称号をまとい、大能と輝かしい栄光を帯びて再び地上に来られます。主イエスの足はオリブ山の上に立ちます。その山は、その真ん中で二つに裂けるでしょう。

その様子は、全世界の人々によって目撃されます。イエスは「人の子の来るのは、いなくが東から出て、西にひらめくように、ちょうどそのように来るのです」（マタイ 24:27）と言われました。

彼の聖徒たちもキリストとともにやってきます。人類の歴史のあけぼのから主を信じたすべての者たちです。

イエスが最初になさることは、ご自分の敵を滅ぼすことです。使徒パウロは次のように書いています。「主イエスが、……炎の中に、現われ……神を知らない人々や、私たちの主イエスの福音に従わない人々に報復されます。そのような人々は、主の御顔の前とその御力の栄光から退けられて、永遠の滅びの刑罰を受けるのです」（Ⅱテサロニケ 1:7-9）。

# 輝かしい神の栄光

すべての敵は取り除かれ、主はこの地上にご自分の王国を建てられます。

「見よ、彼が、雲に  
乗って来られる。  
すべての目、ことに  
彼を突き刺した者たちが、  
彼を見る……」。  
(黙示録 1:7)

## 聖書の参照箇所

ゼカリヤ 14:4、マラキ 4:1-3、マタイ 24:27-31、  
使徒 1:11、I テサロニケ 3:13、II テサロニケ 1:7-10、  
I ペテロ 1:7、4:13、黙示録 1:7、19:11-16

## ついに、地上に平和が

### ——千年王国

この期間の初めに、御使いはサタンを底知れぬ牢、深い淵へつなぎます。

千年王国とは、千年間にわたり平和と繁栄が続く時代のことです。全世界の土地は肥え、農作物はかつてなかったほど実り豊かになるでしょう。荒野や砂漠にもいろいろな花が咲き乱れ、楽しまの場所となります。山々の上でさえ平原のように肥沃になるのです。

人口の激増も問題とはなりません。なぜなら、すべての人々にあり余るほどの食物が備えられるからです。地は一年に12回収穫することができ、農夫たちは次の作物のために耕して準備ができるように、急いで刈り入れをしなければならないほどです。

野生の動物たちも飼いなされます。狼は子羊とともに横たわり、子どもたちはコブラやまむしとも安全に遊ぶのです。

貧困や住宅問題はなくなり、人々は仕事の尊さを楽しみながら生きていくことができます。どの人も自分の財産を持ち、いちじくやぶどうの木を所有するようになるでしょう。

死は、事実上停止状態となります。人間の寿命は飛躍的に伸び、信者はその時代を通じて生き続けることができます。王なるキリストに敵対した者だけが死ぬのです。百歳で死ぬ者は若かったとされ、百歳にならないで死ぬ者はのろわれたものと考えられるほどです。

神のことに無知な者はひとりもいなくなります。地上は、主イエス



# 理想の社会

に関する知識で満たされるからです。

戦争もなくなります。剣は鋤に、槍は鎌に作り替えられるでしょう。言い換えれば、現在軍事費として使われているお金のすべてが、農業のために用いられるということです。

キリストはダビデの王座に君臨されます。エルサレムの町は、宗教的、政治的、経済的に世界の中心となるのです。

イスラエルは諸国家のリーダーとなり、他の国々は何らかの形でイスラエルと関係を持つときにだけ重要なものとなるでしょう。

異邦人国家は礼拝のためにエルサレムにのぼってきます。それを拒む国は災害や干ばつに見舞われるでしょう。この時代に生まれる子どもたちも罪の性質を持っているので「新しく生まれること」が必要です。救いはいつの時代でも、キリストに対する信仰によるのです。す



オリーブ山から見たエルサレム

# サタン（悪魔）の最期

すべての者が救い主を信じるわけではありません。

社会問題の大部分は過去のことになってしまいます。不況や不景気といったことばはもう使われることもありません。政治における汚職や腐敗は一掃され、裁判の誤審もなくなるでしょう。

偽りの宗教によって、人々が感わされたり、財産をかすめ取られたりすることもなくなります。離婚や家庭崩壊、流産や未熟児・障害児、フリーセックス、児童虐待、ポルノ雑誌などは著しく減少し、中には消滅するものもあります。麻薬や殺人事件もまれなことになり、アルコール中毒もめったに見られない現象となるのです。

環境問題も昔のことになります。汚染に対する規制の必要もなくなってしまおうでしょう。

千年王国の終わりが近くなった頃、サタンは底なしの淵から現れて地の四方から軍勢を集め、キリストを王位から引きおろすためにエルサレムに向かって攻めのぼります。天からの火がサタンとその軍勢とを焼きつくし、サタンは火の池に投げ込まれるのです。

# 「時間」はなくなり「永遠」へ

## 突然の大事件

### ——世界の終焉<sup>しゅうえん</sup>

千年王国の終わりには、私たちがいま知っている天体も、宇宙も、地球も崩れ去ってしまいます。使徒ペテロは次のように言っています。「天は大きな響きをたてて消えうせ、天の万象は焼けてくずれ去り、地と地のいろいろなわざは焼き尽くされます」（Ⅱペテロ3:10）。これは、地球規模の核爆発のように見えますが、必ずしもそうとは限りません。ただ、そのことが起きるとき、「時間」というものがなくなること私たちが知っています。すなわち「永遠の世界」が始まるのです。

#### 聖書の参照箇所

イザヤ 2:1-5、11、12、32:1-5、35:1-7、54、60、61、  
65:17-25、66:10-24、黙示録 20:4-6、Ⅱペテロ 3:10

## 永遠に続く愛の交わり

——新天新地

完全な義の住む新しい天と新しい地が起こるでしょう。これは永遠の状態であり、長年にわたってうめき続けてきた被造物たちがここで完成を迎えます。

もっとも素晴らしいことは、主なるイエスがそこにおられるということであり、形容しがたい美しさでさん然と輝いておられることです。主は、そのみからだに十字架の傷跡を持っておられますが、彼の栄光に私たちは目もくらむばかりでしょう。主は「力と、富と、知恵と、勢いと、誉れと、栄光と、賛美を受けるにふさわしい方」（黙示録5:12）なのです。御座の回りには御使いたちが取り囲み、あらゆる部族、国語、民族、国民の中からあがなわれた信者たちが御使いたちとともにいます。天の門にはあがなわれた者たちの賛美が響きわたっています。彼らはご自分の血によって自分たちを買い取ってくださった方のすばらしさをほめたたえているのです。

そのときには、苦しみや悲しみ、病はすでになく、死すら永遠に過ぎ去っています。神の民は、すべての悩みから解放され自由です。罪を犯して、キリストの心を悲しませるようなことはもう二度とありません。救い主が私たちひとりひとりを迎え入れてくださる世界には、もはや「罪」はありません。迫害も、弱さも、欠乏も、誘惑も、失敗も、誤解も、後悔も、このようなものはいっさいないのです。主はすべての必要を満たし、すべての願いを成就してくださいます。神が、そのみわざの奇しさの全容を、何の妨げもなく私たちに絶え間なく現し続けてくださるとは、何というすばらしい時でしょうか。信者たちは、自分たちのささげた祈りのすべてが、神の無限の愛と知恵によっ

## 天国…それはあまりにも素晴らしい目的地

てどのように答えられてきたかを理解するでしょう。また、主が遠く離れておられるように思えたときさえ、主はどんなに近くにいてくださったかを知るようになるのです。

天国の栄光を表現するのに人間のことばは不十分です。人間の心は、そのあまりにも素晴らしい永遠の情景を思い計ることすらできないのですから。

「これらのことばは、  
信すべきものであり、  
真実なのです」。

(黙示録 22:6)

聖書の参照箇所

黙示録 4:8-11、5:8-14、21:1-27、22:1-14

# 永遠の苦しみ 第二の死

神の御前に引き出されて

——大いなる白い御座のさばき

これは、全時代の未信者に対する神のさばきのことです。悪者は墓からよみがえり、生きている者たちも彼らとともに御座の前に立つこととなります。イエス・キリストが審判者です。ここにおかれる者たちはすでに罪に定められています。なぜなら、主イエスを信じなかったからです。ここでのさばきは、天国か地獄かを決定するものではありません。さばきというのは、彼らの刑罰の度合いが決められることなのです。ここでは、与えられた恵みや救いの機会をどれほど軽視したか、またどんな種類の悪事にふけたかなどが基準となるでしょう。天における報いにも大小の差があるように、地獄におけるさばきにも刑罰の度合いがあります。「いのちの書」に名前のあるされていない者は火の池に投げ込まれます。これが「第二の死」なのです。

聖書の参照箇所

黙示録 20:11-15

# すでにある前兆

「その日」は近い？

——あなたはもう準備すべきだ!!

私たちはある問いに直面します。「これらのことは、いつ起こるのか？」すぐにも起こるということを示すしるしが実際にあるでしょうか。

聖書は、携挙の時についてはだれも知らない、とはっきり述べています。ですから、携挙の起こる期日を確定することはみことばに反し、また自分を偽預言者にするることになるのです。

私たちには、その時がいつかは分かりません。しかし、それが近いことを示すしるしを見ることができるといっては決して間違いではありません。来るべき出来事は、その起こる前に多くの暗い影を投げかけるとして示されているからです。

この問題を扱うとき、私たちは、キリストの来臨には二つの段階があると前に説明したことを、もう一度思い起こす必要があります。最初は、聖徒たちをご自分のいる天に引き上げるため、空中まで来られる、というものです（携挙あるいは空中再臨）。次には、その7年後、地上を千年間統治するために、彼らと一緒に地上に来られる、というものです（地上再臨）。

携挙の前には何のしるしもありますが、地上再臨の前には一定の条件が示されています。私たちが今日気づくことは、これらの預言された条件と現在の出来事との間に多くの共通点があるということです。もし、今日起きていることが主の地上再臨の前に起こることに酷似しているのならば、携挙はまさしく近いと言えるのではないのでしょうか。このような前兆のいくつかについて考えることにしましょう。

# 世界の中心は次第に中東へ

聖書は、終わりの時が近づくにつれて、世界の出来事の中心は次第にイスラエルを中心とした中東地域に移されると明確に語っています。預言は、主にイスラエルとその周辺にある国々について語っています。それらの国々の中には、政治的・経済的にイスラエルとつながりを持つものもあり、またイスラエルの敵となる国もあります。様々な中東の国々が大きな影響を与える国となっていくでしょう。シリア、イラン（ペルシャ）、イラク、レバノン、エジプト、サウジアラビアといった国々があげられるでしょう。イラクは旧約聖書のアッシリアに当たり、その指導者は北の国の王でした。旧約聖書における南の王はエジプトの統治者でした。

アメリカを含む西欧の国々については、預言の中では顕著なものとして現れてきません。おそらく、政治的、経済的、宗教的な発言力は弱まるものと推察できます。世界的な権力、指導力は西欧から中東に移行されるものと思われれます。

1948年のイスラエル建国は重大な歴史的イベントでしたし、それは今も世界の抱えている大きな課題です。いちじくの木が芽生えたら、神の国は近くなったことが分かるとイエスは言われました。いちじくの木とはイスラエルを表しています。そして、私たちはいちじくの木が芽生えたのを見たのです。葉は出たけれど、まだ実はありません。今世紀になって初めて、ユダヤ人たちは自分たちの国を建て、全世界のユダヤ人が故国を持つにいたりました。これは神の王国が近づいたことを意味します。もう戸口まで近づいているのです。

私たちはナショナリズム（愛国運動）の台頭についても言明できます。主イエスはいちじくの木だけではなく「すべての木」も見るように語られました。いちじくがイスラエルを表すのであれば、「すべての木」とは明らかに他の国々を指しています。第二次世界大戦後、植民地支配の体制は崩れ、新しい国家が激増してきました。それぞれの



# 神の王国は近い？

民族がそれぞれの国家を建てる時代なのです。

2,500年以上も昔、預言者エゼキエルは、イスラエルが不信仰のうちに自分たちの国に帰ってくることを預言していました。それは今日のイスラエルの姿そのものです。彼らが帰還し、キリストの再臨が起ころまで、イスラエルの人々は罪からきよめられないであろうと預言されています。

エルサレムは、これまで以上に紛争の絶えない場所となるでしょう。預言者ゼカリヤは預言してこう言いました。「見よ。わたしはエルサレムを、その回りのすべての国々の民をよろめかす杯とする。ユダについてもそうなる。エルサレムの包囲されるときに。その日、わたしはエルサレムを、すべての国々の民にとって重い石とする。すべてそれがかつぐ者は、ひどい傷を受ける。地のすべての国々は、それに向かって集まって来よう」(ゼカリヤ12:2-3)。エルサレムはまだ、国際的には正式に承認されてはいませんが、一般にはイスラエルの首都と



エルサレムにある神殿の丘 岩のドーム

# ローマ帝国の復興

呼ばれています。その町を国際管理にしようという話もち上がりしています。また、ユダヤ人の中には「神殿の丘」（そこには今、イスラム教のエル・アクサ寺院、岩のドームが建っている）を占領してそこに新しい神殿を建てようとする扇動家もいるほどです。タイム誌は、0.15平方キロメートルほどのその丘陵地帯は、ひょっとしたら地上で最も不穏な場所であると語っています。

私たちの回りでは、異端が驚くほどに激増しつつあります。彼らはクリスチャンであると公言してはいますが、信仰に関する根本的な教義を否定しており、似通ったものでだましているのです。聖書は世の終末とこのような現象を繰り返し関連づけています。

未来におけるローマ帝国の復興も、聖書には終末の前兆として預言されています。ローマ条約によって設立されたヨーロッパ経済共同体（EEC）はその走りと考えられるかもしれません。ある評論家は、現在のヨーロッパ共同体（EC）を「世界支配も可能な巨大組織である」と表現しています。

世界は超人的な為政者を求めています。ヨーロッパ共同体の設立委員のひとりであるヘンリー・スペック氏（彼は国際連合のベルギー代表でもありました）は「私たちには、私たちと同格のメンバーはこれ以上必要ない。私たちが求めているのは、人々の忠誠を受け、直面している経済的苦境の中から私たちを救い出してくれる超人的な人物である。私たちにそんな人を与えて欲しい。神でも悪魔でも構わないから」と言っています。それぞれの国の政府が法律や秩序を維持できなくなり、テロの制圧にも失敗し続けると、世界的な独裁者の出現が待望されるという風潮を生み出すことになるでしょう。世界の指導者たちは、合い言葉になった「新しい世界秩序」をひとつ覚えのように唱え続けているのです。

# 本当の平和とは？

エキュメニカル運動（宗教統合運動）については、黙示録の17章に似たようなことが記されています。数年前、キリスト教、ユダヤ教、仏教、ヒンズー教、イスラム教、儒教、神道、バハイ教、ゾロアスター教を信じる人々が、互いの宗教上の違いを狭めるために会議を開くという考えられないようなことが起こりました。今日、巨大な世界宗教の指導者たちが、世界的な宗教連合体を作る可能性を探るために対話していることを私たちはしばしば耳にします。1986年の10月、ローマ法王ヨハネ・パウロは、世界平和を祈るために世界のおもな12の宗教の代表者をアッシジ（イタリアの町）に招待しました。その中には、アフリカのアニミズム（宗教の原初形態のひとつ。自然界のあらゆる事物に靈魂の存在を認める）も含まれていたのです。聖書はこのような統合体を「大淫婦」「淫婦の母」「大バビロン」などと呼んでいます。この巨大な組織は、真に聖書的なキリスト信仰以外のどんな宗教に対しても寛容なのです。「背教したキリスト教界」がここに表されています。

使徒パウロは人々が「平和だ。安全だ」と言っているときに神のさばきが訪れると私たちに語っています。テサロニケ人への手紙第一の5章3節には「人々が『平和だ。安全だ』と言っているそのようなときに、突如として滅びが彼らに襲いかかります。ちょうど妊婦に産みの苦しみが臨むようなもので、それをのがれることは決してできません」と書かれています。ウィーンにある国際連合のビルには「平和と安全」をうたった聖書のことばが書き刻まれています。しかし、悲しいことに、聖書の預言どおり平和はいまだ訪れていないのです。人々は平和がなくても「平和、平和」と言い続けるでしょう。しかし、手に十字架の釘跡を残した主イエスの御手が、全世界を支配する王位を手にしたときに、初めて平和は実現するものなのです。

世の人々は、神が人類の歴史に介入されることを否定するでしょう。今日では、ほとんどの人々が、キリストの再臨に関する聖書のみこと

# 地震の頻発

ばを文字どおり解釈することを、あざけり笑うものです。

主イエスは「にセキリスト」の出現を預言しておられました。韓国の文鮮明（統一協会）は最近、自分が本当の救い主であると宣言しました。他の東洋の宗教指導者たちも同じような宣言をし、人々の忠誠を求めています。仏教徒たちは「弥勒菩薩」、すなわちメシヤのような世界的な説法者を待ち望んでいます。このような「詐欺師たち」があちこちに登場しているのです。

主イエスは地震の頻発にも言及しておられました。ある調査では、世界中で地震の発生が多くなっていると報告されています。



古代バビロンにあったイシュタル門の再現（ベルリン・ベルガモン博物館）

# 悪魔を拝む若者たち

ヨハネの黙示録16章12節には、ユーフラテス川が患難時代に干上がり、中国・日本・インドなどの東方の大勢力が渡ってくるとして描かれています。しかし、今まではとても起こりそうにないと思われてきたこのことが、突然可能性のあることとなったのです。新しくできたアタタックダムの一部を満たすために、トルコは1990年の1月に数週間にわたってユーフラテス川の流れの一部を変えました。そして、満水にするためには、トルコはほぼ2年間ユーフラテス川の水を止めなければならないのです。このことはもちろん周辺諸国との摩擦を生じさせることになるでしょう。

終わりの時代には、全世界で道徳の基準が著しく低下します。日々のニュースが、すでにこのことを証拠づけているでしょう。人工妊娠中絶、ポルノ雑誌、アダルトビデオ、同性愛、不倫……はなはだしい不品行や不道徳が反論もなく受け入れられているのですから。

暴力が横行し、市民も法律を守らなくなります。無法状態が家庭や国民生活の中に広まり、教室や教会堂の中にまで行き渡るでしょう。

交霊術（霊媒によって死者の霊と交信すること）が世界中に激増し、いたる所で行われるようになります。イエス・キリストがこの世に人の姿でお生まれになったとき、サタンの数多くの妨害があったのですが、再臨の際にも同じことが繰り返されると思われまます。

今日、ある国々では、悪魔を礼拝する教会もいくつか存在します。人々は、大胆にも自分たちを白魔術や黒魔術の使い手であると言っています。マインド・コントロールを行う薬物の使用は、悪魔のついている隙となってしまいました。心ない殺人や自殺の多くは、悪魔にとりつかれた結果です。（悪魔の目的は常に滅ぼすことにあるのです。世界各国で今、悪魔崇拝が十代の若者を急速にむしばみつつあります。日本でも多くの若者が、占いやオカルト、新興宗教や新新宗教にとら

# 反キリスト…「獣」の数字は「666」

われてしまっています。)

バビロンの町を再建しようとする努力も払われています。何世紀にもわたり砂漠の中の廃墟にしか過ぎなかった町が、突然、再び注目を浴び始めたのです。聖書の預言の成就のためには、バビロンは再建されなければならないでしょう。それから、完全に滅ぼされて、永久に人が住まない場所となるのです。

核兵器の開発によって、次のような質問にひとつの意味が加わりました。「だれがこれと戦うことができよう」(黙示録13:4)。「これ」とはもちろん「反キリスト」のことです。

聖書は、全世界の人々が同時に目撃することになる出来事について預言していますが、テレビの衛星放送は、その預言を成就する手段になるかもしれません。

反キリストを礼拝する者しか、売り買いができない社会がやってきます。人々を見分ける簡単な方法として、右手か額の皮膚の中に小さなものを埋め込むのです。電子入力装置がその番号「666」を読み取ることになります。

抗生物質が開発された現代においては、聖書の預言通り、疫病が全世界に蔓延することなどありえないと思われるでしょう。しかし、ジェット旅客機という交通手段によって、この預言の実現が可能となったのです。エイズによる死亡者は、今後起こる莫大な犠牲者を伴う神のさばきの予告であるかもしれません。専門家の中には、今後10年以内にアフリカの人口の25パーセントがエイズによって死亡すると予測している者もいるほどです。

現在見られる世の風潮の多くは、患難時代やキリストの再臨のとき

# エイズは神のさばきの予告？

に起こることがらの前兆となっています。聖書は、それらが携挙（空中再臨）の前ではなく、栄光のうちに主が現れる地上再臨の前に起こると語っています。それが真実であり、かつ今日の状況が地上再臨の直前の状況に近いのであれば、携挙はもっと間近に迫っているというのが明確な結論です。携挙（空中再臨）は少なくとも地上再臨の7年前に起こるのですから、「その日」はますます近づいていると言えるでしょう。

「そのように、これらのことの  
すべてを見たら、あなたがたは、  
人の子が戸口まで近づいている  
と知りなさい」。

（マタイ 24:38）

## 聖書の参照箇所

イザヤ 19:23、60:13、エゼキエル 38:5、ダニエル 11:40-45、  
ルカ 21:29、エゼキエル 36:24-25、ゼカリヤ 12:2-3、  
II テモテ 3:8、ダニエル 2:41-42、7:7、24、黙示録 13:1-10、  
エゼキエル 28:1-10、ダニエル 7:7-8、20-26、8:23-25、  
9:26-27、11:36-45、II テサロニケ 2:3-12、黙示録 13:1-10、  
17:8-14、I テサロニケ 5:3、エレミヤ 6:14、II ペテロ 3:3-4、  
マタイ 24:5、24、マタイ 24:7、ルカ 21:11、II テモテ 3:1-5、  
II テサロニケ 2:7-8、I テモテ 4:1-3、黙示録 13:4、1:7、  
マタイ 24:7、黙示録 11:6

# 今すぐ賢明な選択を

今でなければ、「いつ」？

—いつになったら、  
あなたは信じ救われる「つもり」なのか？

## まだキリストを信じていない方々に対するメッセージ

預言の目的は、好奇心をかき立てることではなく、意志を変えて行動を動機づけることにあります。未来の準備を正しく選択できるよう、人々にあらかじめ警告しているのです。

もし、あなたが救われていないなら、あなたへのメッセージは、はっきりしています。今すぐに、キリストを救い主と信じ、あなたの主として受け入れてください。もし、キリストが来られるまで待つのであれば遅すぎるのです。主イエスが来られれば、あなたの知っているクリスチャンはみな天に引き上げられてしまい、あなたは、この地上に残されて神の怒りを受けることとなります。キリストを受け入れることで、あなたはすべてのものを手に入れることとなります。キリストこそ天国へ通じる唯一の道であり、私たちの希望なのです。信じることによって失うものなど何もないのです。

## 今、備えをしておくのは賢明なことです

どのようにすれば、自分が救われるのか分からない人のために説明しましょう。

まず、あなたは神の前に罪人であり、その罪は永遠の滅びに値する。もし、あなたがいま死ねば、あなたは地獄に行かなければならない、



## 主イエスはあなたの罪の身代わりとなって死なれた

ということをまず理解することです。

次に、あなたは自分自身の力では自分を救うことはできない、ということを経なければなりません。血筋や家柄、あなたの善良な性格、ただ単に教会の集まりに参加すること、これらはあなたを救うことはできません。良い行いや人間的な功績をいくら積んだとしてもむだです。これらによって、あなたは天国への切符を手に入れることは決してできないのです。

救われるためには、イエス・キリストがあなたの身代わりに死んでくださり、それによってあなたの罪の代価を支払い、あなたが受けるべき神の御怒りを受けてくださったと信じなければなりません。主イエスは「すべての人」が救われるために、十字架に犠牲とられました。「すべての人」の中には、もちろんあなたも含まれています。主は、あなたのためにも犠牲とられたのです。そのことを信じてください。

それから、自分の口ではっきりとイエスを主と告白してください。「なぜなら、もしあなたの口でイエスを主と告白し、あなたの心で神はイエスを死者の中からよみがえらせてくださったと信じるなら、あなたは救われるからです。人は心に信じて義と認められ、口で告白して救われるのです」(ローマ 10:9-10)。そうすれば神が、ご自分のみことばの権威に基づいて、あなたに救いの確信を与えてくださるでしょう。

## すべてのものを得る

あなたは主イエスを信じなければなりません。

- これは、あなたの人生の中でもっとも重要な決断です。
- これによって、あなたが天国へ行くか、地獄へ行くかが決まるのです。これは、永遠のいのちか、永遠の滅びかの選択の問題です。
- あなたはすべてのものを得ることになります。失うものは「罪」以外には何もありません。
- イエス・キリストは信頼に足るお方です。従って行って間違いのないお方なのです。
- この救いは無代価で与えられます。救いは神からの賜物、贈り物なのです。

## 失う多くのもの

あなたは「今すぐに」主イエスを信じなければなりません。

- 先延ばしすることで、致命的な結果になってしまうかもしれないからです。
- あなたは、今すぐに死なないとも限りません。
- 死は確実に私たちを襲います。
- 「時は縮まって」います。
- キリストの来臨は間近なのです。

再び問います。今でなければいつ？

## 聖書の参照箇所

- ローマ 3:23、ルカ 13:3、13:5、エペソ 2:9、テトス 3:5、  
I コリント 15:3-4、ヨハネ 3:16、使徒 16:31、ローマ 10:9、  
I ヨハネ 5:13

## すでに「天国への切符」を 手にしている方々のために

預言の学びは私たちを礼拝へと導きます。それは、私たちの主を創造の神、あがないの主、摂理のお方として、私たちに教えてくれるからです。私たちの主は、罪と死とサタンに対し究極的な勝利をおさめられました。預言は救い主の栄光をたたえます。「イエスのあかしは預言の霊です」(黙示録 19:10)。これは、預言の目的は、主イエスご自身とのお働きを立証することである、ということの意味しています。預言の学びの中で、ある人が賢明にも次のように言いました。「私たちはどのように世界が進んでいくかというプログラムに心を奪われ、主イエスを見失うことのないようにしなければならない」。私たちは、いつもこのお方を心の中心に置かなければなりません。このことのために、ヨハネの黙示録は全編にわたってすばらしい礼拝の歌で満ちているのです。

キリストの来臨の希望は、彼に従う者たちの生活に影響を与え、きよめられたいという願望に導くでしょう。ヨハネは「キリストに対するこの望みをいだく者はみな、キリストが清くあられるように、自分を清くします」(1ヨハネ3:3)と言っています。もし、イエスがいつ来られてもいいように私たちが「本当に」待っているのなら、悪い思いを抱いたり、悪を行っているところを見られたくはないでしょう。私たちはどこへ行くか、何を食べるか、だれと親しい友人になるかなどについて注意しなくてはなりません。

救い主が戻ってこられるという事実は私たちに、未信者が救われるよう祈り、彼らに福音をあかしするという責任感を与えます。私たちは、人々の前で勇気を持って信仰を告白すべきです。携挙によって、

# 主の再臨の光の中に生きる

私たちの親族や友人、近所の人たちは、救われる機会を永遠に失うことになるかもしれないのです。私たちは、恐れ退くのではなく、パウロが言ったように「何とかして、幾人かでも」(Iコリント9:22) 救いに導きたいものです。

もし、私たちが、間近に迫った主の再臨の希望の中に生きるならば、忍耐を必要とする信仰生活に大きな助けとなるでしょう。「今の時のいろいろの苦しみは、将来私たちに啓示されようとしている栄光に比べれば、取るに足りない」(ローマ8:18) ものであることを、いつも心に留めておくべきです。

キリストの再臨が間近に迫っていると予期することは、主が命じられたすべての点で主に従っていきたい、という思いに導きます。この地上にいるときしか従えず、天においては実行できない命令があります。バプテスマがそのひとつです。もし、キリストが来られたときバプテスマを受けていなかったら、その人は永遠に受けることはできないでしょう。主の晩餐(パン裂きの集会)も同様です。私たちは主が来られるまで、その死を告げ知らせるようにと求められています。これらは、この地上で従えなかったら、二度と従うことができずに終わってしまうのです。

主が来られる時が近づくにつれ、私たちが所有している物質的な財産の価値は下がっていきます。主が、もしいま来られたならば、私たちが持っているものはすべて、私たちにとって何の価値もなくなるでしょう。私たちはシンプル・ライフを心がけるべきであり、当面の必要以外の所有物は、主の働きのためにすべて用いるべきです。遠くの国へ旅立つのに、多くの荷物を買いはさることは不要です。

主イエスが来られるとき、私たちの霊的な指導者や教師たちが、その努力が無駄だったと恥じ入ることのないように生きなければなりません。

# 時は縮まっている

せん。これが「そこで、子どもたちよ。キリストのうちにとどまっていなさい。それは、キリストが現われるとき、私たちが信頼を持ち、その来臨のときに、御前で恥じ入るといふことのないためです」（Iヨハネ 2:2）とヨハネが書いたことの意味なのです。

悪を行ってしまった人に対して謝罪したり、必要であれば償いをすることも私たちには求められています。もし、これらすべてのことがキリストの来臨によって必要でなくなる、と考えているのであれば、それは大きな間違いです。私たちは再び、キリストのさばきの座でそれらの問題に出会うのです。今すぐ、それらを片づけておいた方がよいでしょう。あらゆる点において、私たちは、みことばの標準に従うべきなのです。

主の来臨に注目するにつれて、「だれも働くことのできない夜」（ヨハネ 9:4）が来ることを教えられ、熱心に仕えていこうという念にかられてきます。主に仕えていこうとする者はだれでも、それを先におぼしてはなりません。急ぐべきです。時は迫っているのですから。

<sup>けいぎょ</sup> 携挙は、私たちにとって祝福された望みです。同時に、それによって私たちは、自制を心がけ、柔和な心で理性的に歩もうという決意へと促されます。それは、愛と和合のための原動力でもあります。

私たちは、自分たちの奉仕が報われる時である、「キリストのさばきの座」（IIコリント 5:10）に焦点を合わせて日々を過ごすべきです。そのとき、私たちは報いを受けるか、損失をこうむるかのどちらかでしょう。しかし、救いに関しては問題とはならず不変です。もし、私たちがさばきの御座からの視点を持ち続けるならば、次のことばの真実を悟るでしょう。「たった一度の人生、それはまもなく過ぎ去ってしまう。キリストのためにしたことだけが永遠に残るのである。」

# 主は今日来られるかもしれない

言い換えれば、キリストの再臨は、信者の生涯のすべての点に影響を与えるべきです。すなわち、すべての選択、すべての考え、すべての活動は、キリストの再臨という視点によって計るべきなのです。もしそうであるならば、「きょう、来られるかもしれない」ということは、私たちの人生のモットーとなるでしょう。

# 聖書はあなたを永遠に守る

最後にまとめると……

次に起こることは何か？ それは、キリストの再臨です。

それは、いつか？ 今日の状況は、主が来られるのが近いということの兆候を数多く示しています。このような時代は、世界の歴史においていまだかつてありませんでした。ある人は「私たちは、キリストの再臨を目にした『終わりの時代』の、しかもその最後の段階に生きている。そのことを確たるものとする、聖書的な根拠のある時代はいまだかつてなかった。私は、このことを語るとき興奮する。なぜなら『私たちの時代まではなかった』からである」と言っています。

何をなすべきか？ もし、あなたが未信者ならば、キリストの再臨のメッセージを通して真理に目覚め、自分の罪を悔い改めて、あなたの人生を完全に主なるお方にゆだねてください。

もし、あなたが信仰者であれば、主がいつ来られてもよいように常に心がけて生活してください。

主はきょう、来られるかもしれないのですから!!

## 聖書の参照箇所

黙示録 1:5-6、5:9-10、I テサロニケ 5:23、I ヨハネ 3:3、  
創世記 19:14、エゼキエル 33:6、ローマ 8:18、II コリント 4:17、  
ヨハネ 14:15、使徒 10:48、ルカ 22:19-20、マタイ 6:19、  
I ヨハネ 2:28、マタイ 5:24、ヨハネ 9:4、I テサロニケ 1:9-10、  
ピリピ 4-5、I コリント 3:11-15、II コリント 5:10

# ARMAGEDDON SOON ?

by

Wm. MacDonald

WALTERICK PUBLISHERS

Kansas City, KS, USA

ハルマゲドンは近い? (日本語) 版權所有

平成7年10月20日 初版発行

著者 ウィリアム・マクドナルド

訳者 那須 清志

発行者 J・B・カリー

発行所 伝道出版社

〒204 清瀬市清瀬郵便局 私書箱14号  
TEL & FAX 0429-65-9904

(Printed in Korea)